

査に於いては 36～40 歳の壮年層に最も罹病者が多く、病名別にみた場合は結核が約 40% で最も多く、次いで現場及び交通事故の多いのが目立つ。之等結核、事故共に不満足な栄養状態との関連性が認められる。以上より最低生活者である彼等は栄養的には栄養思想及び栄養知識の貧困さが、経済的には低所得が原因してその労働能力が充分に発揮され得ない現状にあると云える。従って、今後保健所その他を通じての食生活の合理化運動並びに国家的社会施策としての失対給与適正化の実現が希まれるものである。

* 41 失業対策労務者の食生活（第 3 報）

別府大短大 須東 妙子

我が国に於ける失対労務者の直面している諸問題中、最も重要であると思われるものはその食生活である。此の実態を知って問題解決の一助にしたいと考え、先に第 1 報に於いて別府市に於ける失対労務者を対象に、その就労状況、生活状態（特に食生活について）調査を行い次いで第 2 報として一般家庭と独身者の食糧構成に関する諸調査について報告したが、今回は彼等の経済状態と健康状態の関連性を追究し、その対策について考慮したいと思い、ここにその調査結果を報告する。

先ず就労者の生活費の食物費%を調べ、之をエンゲル最少限生活費%と比較したが、前者は後者を僅かに上廻っていた。次に彼等の身体症候発現状況及び疾病罹患状況を調査した。身体症候では有症者の%は比較的低いが栄養摂取状態に関係の深い貧血、口角炎、浮腫、腱反射消失等の%が高い様である。疾病については、年齢別調